

「イスラームにおける幸せの法則」

@御徒町マスジドにおける 2018.2.9.金曜フトバ要約 by 杉本恭一郎

人間は不幸になるために生まれてきたのではありません。幸せになるために生まれてきました。イスラームとはアッラーを味方にする生き方で、アッラーが味方につけば、人間はこの世とあの世で幸せになるという成功の法則でもあるのです。

クルアーン 3 章 160 節いわく「もしアッラーがあなた方を助けるならば、あなた方に打ち勝つ人はいないのです。もしかれがあなた方を見捨てるならば、かれの他に誰があなた方を助けることができるでしょうか。だから信者たちは、アッラーに全幅の信頼を寄せなさい」とあります。アッラーが味方につけば、人生の最強カードを手に入れることになります。

またアッラーを味方にするとは、アッラーが喜ぶことをするという事です。5 章 119 節「アッラーは言いました。この（審判の）日は正直者が正直ゆえに得をする日です。かれらには川が下を流れる楽園があり、永遠にその中に住むのです。アッラーはかれらに満悦し、かれらもまたかれ(アッラー)に喜悅します。これこそが大勝利（大成功）なのです」

さらに 10 章 26 節・27 節にも次のように記されています。「善行をした人には最高の報奨があり、また追加もあります。暗さや恥辱がかれらの顔を覆うことはありません。これらの人びとは楽園の住人で、かれらはその中に永遠に住むでしょう。でも悪を稼いできた人びとには、同等の悪の報いがあります」

つまり、アッラーが喜ぶこと（善行）をすれば、この世とあの世において良い報奨があり、アッラーが怒ること、喜ばないこと（悪行）をすれば悪い末路があるということで、これを「アッラーの因果応報」と呼ぶことができるのです。

アッラーの喜ばれることとは、具体的に、まずアッラーを信じることです。そしてムスリム（ムスリマ）とはアッラーの命令に従って生きる人びとのことをさします。アッラーの命令とは、クルアーンという形で現在の私たちもその内容を知ることができます。たとえばクルアーン 2 章 177 節には、「(アッラーに) 正しく仕えるということは、あなたがたの顔を東または西に向けることではありません。正しく仕える(人びと)とは、アッラーと最後の日、天使たち、諸啓典、預言者たちを信じ、愛着あるとしてもその財産を、近親、孤児、貧者、旅人、物乞い、奴隷の解放のために費やし、礼拝の務めを守り、定めぬ施しを行ない、約束したときは約束を果たし、また、不運や逆境、そして危機に際してよく耐え忍ぶ人びとです。これらの人びとこそ真実(に従うところ)の人びとであり、これらの人びとこそアッラーを注意深く意識するのです」とあります。これら善行がアッラーの喜ばれることなのです。

またアッラーの喜ぶことは、「アッラーとかれの使徒ムハンマドに従うこと」と言い換えることもできます。4 章 69 節「アッラーと使徒に従う人は誰でも、アッラーが寵愛を与えられた預言者たち、誠実な人たち、真実の証人たち、そして正道にある人たちと一緒にしましょう。かれらは何とすばらしい仲間でしょうか」とあります。

アッラーの命令を守ることで、来世だけでなく現世における幸せも得られます。16 章 97 節いわく「誰でも善行をし(真の)信者ならば、男でも女でも、われらは必ず幸せな(現世の)生活を送らせる。われらはかれらが行なった最も優れたものによって報奨を与える」とあります。サヒーフ・ムスリム第 1 書ハディース番号 27: ヤヒヤー・スハイブ・ビン・スィナンによると、アッラーの使徒いわく、「いかに信者のすばらしいことでしょうか。かれにとってはすべてが良いのです。これは信者にのみ当てはまります。もし成功すれば、アッラーに感謝することがかれにとって良いことであり、もし逆境が襲えば、忍耐強くあることがかれにとって良いことなのです」これが「イスラームにおける幸せの法則」なのです。